

「保健教育推進シート」を活用した喫煙、 飲酒、薬物乱用防止教育の実践

鹿児島市立南方小学校
養護教諭 池澤麻衣子

1 本校の概要

本校は児童数58人、職員数16人の小規模校である。学校教育目標は、「自ら学び心豊かにたくましく生きぬく南方の子供を育成する」である。知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を目指し、校訓である「至誠一貫 喜び勇んでことをなし 最後までがんばる もてる力あり その力こそ伸ばさんものぞ南方」という南方魂を本校教育で目指す子供の姿として位置付けている。

2 本校児童の実態

本校児童に「あなたは健康だと思いますか。」という質問をしたところ、96.6%の児童が「はい」と答えている。しかし、令和4年度の健康診断の結果では、「未処置歯のある者」の割合は69.6%、「視力1.0未満の者」の割合は27.6%と高い割合にある。また、肥満傾向の児童や長時間のメディア接触により生活習慣が乱れている児童も数人いる等、健康課題は多いと言える。

本校では、保健教育の中であらゆる健康課題を自分の課題として捉え、主体的に課題解決に取り組もうとする児童の育成を目指し、学校、地域、家庭と連携した保健教育を実践している。

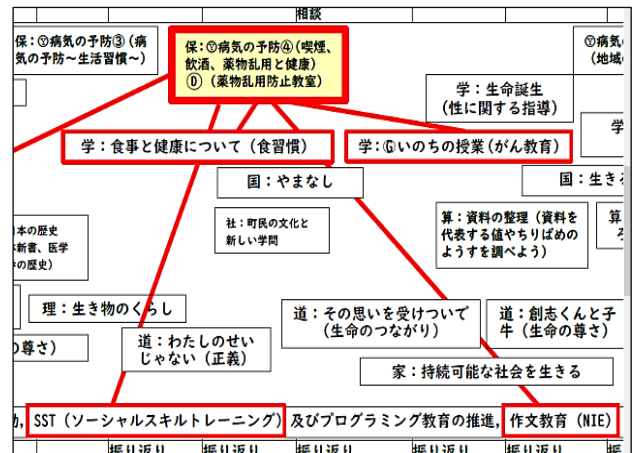
喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育については、6年生に実施したアンケート結果から、喫煙や飲酒に興味があると回答した児童が、喫煙で18.8%、飲酒で43.8%いることが分かった。このことから、喫煙や飲酒、そして薬物乱用による心身の健康への害に関する正しい知識の習得や、幅広いライフスキルの育成が必要である。

3 保健教育の実践

(1) 「保健教育推進シート」の活用

本校では「保健教育推進シート」を作成・活用し、教科等横断的な保健教育を推進している。「保健教育推進シート」は、保健教育

に関連する各教科等の内容や行事等を表記し、あらゆる機会を保健教育につなげられるように視覚化したものである。



【「保健教育推進シート(6年生用)」の一部】

今回は「保健教育推進シート」を活用し、児童の発達の段階に応じ、教科等横断的に進めている喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の取組の一部を紹介する。

(2) 全体計画及び年間指導計画

本校では、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育に関する指導の目標を「喫煙、飲酒、薬物乱用を防止し、生涯を通して健康・安全で活力ある生活を送ることができるような資質・能力を育てる」と設定し、各学年の年間指導計画を下記のとおり計画し、実施している。

学年	教科等	単元名又は主題
1年	学級活動	たばこのけむり
2年	学級活動	たばこのがい
3年	学級活動	いろいろな飲み物
4年	学級活動	薬の正しい使い方
5年	体育科(保健領域)	心の健康
	学級活動	たばこの害と健康
6年	体育科(保健領域)	病気の予防(喫煙、飲酒、薬物乱用の害)
	学級活動	薬物乱用防止教室
	総合的な学習の時間(SST)	薬物乱用の適切な断り方

(3) 授業の実際から家庭への啓発及び連携

保健教育の指導に当たっては、以下のことを全職員で共通理解し、実践している。

- ・ 児童が、主体的に課題解決に取り組もうとする学習の流れであること。
- ・ 児童が、自分で考える時間やペアまたはグループで意見を交流する場面を設定し、より深化した考えの構築を目指すことができるようにすること。
- ・ 児童が、今回学んだことを今後の生活に生かすための具体的な働きかけの場を設定すること。
- ・ 「保健教育推進シート」を活用し、各教科等や各領域との知識及び技能のつながりを多面的・多角的に考えること。

ア 第6学年 体育科（保健領域）

「病気の予防（薬物乱用の害と健康）」

【本時の目標】

薬物乱用は、健康を損なう原因となることを理解することができる。

【本時の学習内容】

薬物乱用による心身の健康への害について知り、「なぜ、薬物乱用が厳しく禁止されているのか。」という問いに対してグループで意見交流を行った。意見交流では、ロイロノートを活用し、他者の意見を確認しながら発言する児童の姿が見られた。

また、学習したことを基に「薬物には絶対に手を出さない」という自分の決意と理由を記入していた。



【意見交流の様子】

イ 第6学年 総合的な学習の時間（SST）

「薬物乱用の適切な断り方」

【本時の目標】

「薬物乱用の健康への害」で学んだことを基に、薬物をすすめられた時の適切な断り方を考えることができる。

【本時の学習内容】

「薬物乱用の害と健康」で学んだことを振り返り、設定した問題場面を基に、各グループでロールプレイングを行い、適切な断り方について考えた。

授業参観に合わせて授業を行うことで、保護者にも誘う役で協力してもらい、ロールプレイングを実施することができた。保護者と共に学ぶ良い



機会となった。【ロールプレイングの様子】

ウ 家庭への啓発及び連携

授業で学んだことは、学級だよりや保健だよりで家庭に伝えている。また、本校の特色ある教育活動の一つである「作文教育」とも関連させ、6年生では新聞記事を活用し、薬物乱用の害に関連する記事に対して自分の考えを記述する課題を家庭学習の課題に取り入れた。

(4) 学校薬剤師との連携

年間指導計画への指導助言及び第4学年「薬の正しい使い方」、第6学年「薬物乱用防止教室」では、学校薬剤師と連携して授業を行っている。専門的立場からの具体的資料を用いた話は、児童の関心を深め、これまでの学習を振り返る良い機会となっている。

4 成果と課題

(1) 成果

児童の発達の段階に応じた年間指導計画の下、教科等横断的な喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育を学校全体で実施することで、継続して知識を深め、今後の生活について考えることができた。

(2) 課題

より効果的な喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育を進めるために、講師の選定に関する情報収集を行い関係機関との連携を進めていきたい。